

「愛国っ子」の学び 令和7年度 全国学力・学習状況調査結果の概要

令和7年4月17日（木）に、全国の小学校第6学年児童を対象に実施した標記調査について、本校の結果の概要をお知らせいたします。今年度は、国語、算数、理科の3教科と質問調査による実施でした。

（質問調査は4月18日にオンラインにて実施）

教科に関する調査

国語

○「話す・聞く」の領域で自分が聞こうとする意図に応じて話の内容を捉えたり、話し手の考えを比較したりしながら自分の考えをまとめることができるかどうかを見る問題はよくできています。

○「言葉の特徴や使い方に関する事項」で漢字を文の中で正しく使うことができるかどうかを見る問題がよくできています。

▲「書くこと」の領域で書く内容の中心を明確にして段落を作ったり、自分の考えが伝わるように書き表し方の工夫をしたりすることができるかどうかを見る問題に課題が見られます。

算数

○「数と計算」の領域で共通する単位を捉えることや、数直線上で分数を単位分数のいくつ分としてとらえることができるかどうかを見る問題がよくできています。

○「変化と関係」の領域で10%増量の意味を解釈し何倍になっているかを表すことができるかどうかを見る問題がよくできています。

▲「データの活用」の領域で目的に応じて適切なグラフを選択して判断する問題や、知りたい数量の大きさの求め方を式や言葉を用いて記述する問題に課題が見られます。

理科

○「生命」を柱とする問題で、へちまの花のつくりやレタスの発芽の条件、顕微鏡の操作の仕方が身についているかどうかを見る問題がよくできています。

○「粒子」を柱とする領域で、水の温まり方について表現することができるかどうかを見る問題がよくできています。

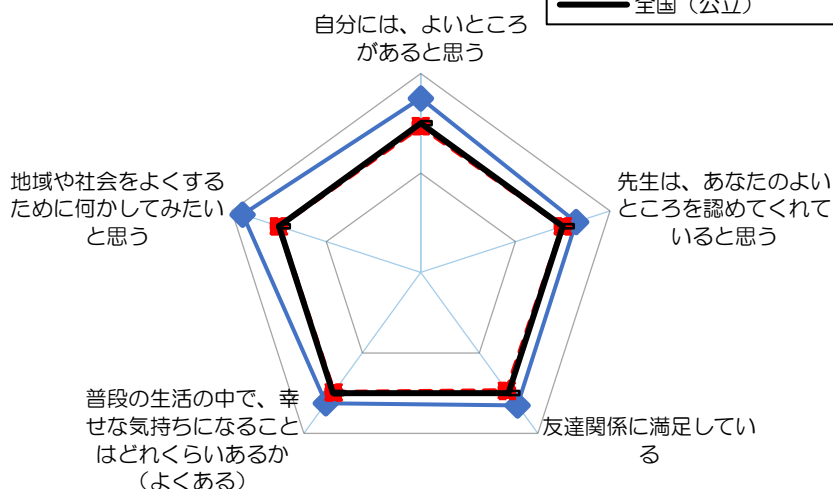
▲「エネルギー」を柱とする領域で電磁石の性質や乾電池のつなぎ方による電磁石の強さの違いをこたえる問題に課題が見られます。

国語・算数・理科ともに無回答はなく、最後まで問題とねばり強く向き合う力が身につけていますが、どの教科も記述で答える問題に課題が見られます。普段の授業の中で分かったことを自分の言葉で表現する活動を多く取り入れながら自らの考えを表現する力を育てていきます。

児童質問紙より

そう思う、
どちらかと言えばそう思う
と答えた児童の割合

— 帯広市立愛国小学校
- - 北海道（公立）
— 全国（公立）



◎たくさんある質問の内容から、帯広市の今年度の重点でもある「ウェルビーイング」について注目し、ピックアップしてみました。本校の児童のウェルビーイングに関する状況の質問項目では、「自分にはよいところがあると思う」「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思う」「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいあるか（よくある）」「友達関係に満足している」の質問に対し全員が肯定的に答えています。普段の生活の中で一人一人の良さが認められ、存在価値が満たされていることが伺えます。引き続き、学習活動、特別活動、学校行事等さまざまな場面で自己肯定感を育み、ウェルビーイングの向上につなげていきたいと思ひます。

全国学力・学習状況調査は、調査結果を分析し、教育指導の充実や学習活動の改善等に役立てることを目的としています。本校では、調査結果について学校全体で共有し、よさを伸ばすことや課題解決に向けて以下の3つについて継続的な検証改善サイクルを繰り返しながら教育活動のさらなる充実を進めていきます。

1. 自己調整（自由進度）学習を視点とした授業展開の確立。（個別最適な学びの充実）
2. 協働的な学びが生まれる学習展開の充実。（思考を様々な形でアウトプットする力の育成）
3. 学校の学びと連動した家庭学習の推進。（家庭学習の手引きの活用）